

第 67 回新潟癌治療研究会

日 時 平成 19 年 7 月 28 日 (土)
午後 1 時 30 分～7 時 10 分
会 場 ホテル新潟 3 階 飛翔

2 外科療法を行った上顎歯肉扁平上皮がんの治療成績

新垣 晋・三上 俊彦・金丸 祥平
中里 隆之・新美 奏恵・小田 陽平
芳沢 亨子・斎藤 力・林 孝文*

新潟大学大学院医歯学総合研究科
口腔生命科学専攻組織再建口腔外
科学分野
同 口腔生命科学専攻顎顔面放射
線学分野*

I. 一 般 演 題

1 酪酸ナトリウムによる口腔癌細胞に対する抗腫瘍効果

富田 智・岡田 康男*・又賀 泉**
片桐 正隆*

厚生連村上総合病院歯科口腔外科
日本歯科大学新潟生命歯学部病理
学講座*
同 口腔外科学第 2 講座**

酪酸ナトリウムはヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の 1 つで分化誘導剤として知られており、ほとんどのヒストン脱アセチル化酵素の活性を抑制することでヒストンの高アセチル化を促すとともに、*p53* 非依存性に *p21* の誘導が可能となり、DNA 合成 (G1 期-S 期への移行) を阻害すると報告されている。これまで酪酸ナトリウムのヒト glioma 細胞における腫瘍増殖抑制効果についての報告はあるが、口腔扁平上皮癌細胞や抗癌剤耐性癌細胞における酪酸ナトリウムの抗腫瘍効果に関する報告はみられない。そこで今回、酪酸ナトリウムを用い、ヒト口腔扁平上皮癌細胞株における抗腫瘍効果に関する基礎的研究を行った。その結果、酪酸ナトリウム処理により CDDP 耐性株を含む口腔癌細胞の増殖・浸潤抑制効果があることを見出し、また、その機序としての細胞周期 (G1 期-S 期) の移行抑制、およびアポトーシス誘導について検討を行ったので報告する。

外科療法を行った上顎歯肉扁平上皮癌の頸部リンパ節転移様相、再発部位とその制御率、予後について検討した。

対象は過去 16 年間 (1990～2005) に外科療法を行った未治療の上顎歯肉扁平上皮癌 29 症例である。性別は男性 15 例、女性 14 例、初診時の年齢は 38 歳から 84 歳であった。T1 5 例、T2 11 例、T3 5 例、T4 8 例、初診時に頸部リンパ節転移を 7 例に認めた。腫瘍の占拠部位は前方 8 例、側方 7 例、後方 14 例であった。頸部郭清は 17 例 (両側 4 例) に行われ、転移はレベル I、II 領域に局限していた。再発部位は局所が 5 例、頸部が後発転移を含めて 8 例、遠隔転移が 3 例であった。局所再発の 5 例中 2 例、頸部転移・再発の 8 例中 6 例が制御されたが、遠隔転移 3 例は症状緩和のみであった。5 年累積生存率は 65 % であった。転帰は、生存 18 例、原病死 9 例 (局所 3 例、頸部 2 例、遠隔転移 4 例)、他病死 2 例であった。

3 口腔舌扁平上皮癌における原発巣切除断端部に関する臨床病理組織学的検討

佐藤 英明・田中 彰・山口 晃
又賀 泉*・岡田 康男**・片桐 正隆**
日本歯科大学新潟病院口腔外科
日本歯科大学新潟生命歯学部口腔
外科学第 2 講座*
同 病理学講座**

【目的】口腔粘膜扁平上皮癌において腫瘍周囲に存在する上皮性異形成の取り扱いは一定の見解が得られていないのが現状である。そこで切除断